「日々の理科」(第529号) 2015 (H27), 12, 16

「常緑樹化するイチョウ(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

本校は大学構内にあり、その大学の正門から講堂に かけて、14本のイチョウが植わっている。美しいイ チョウ並木である。小学校はそのイチョウ並木の左側 にある。そのイチョウに異変が起きている。

毎年6年生が、卒業アルバムのために、集合写真の 撮影をするのだが、その時期が年年歳歳遅くなってい る。かつては 11 月の中旬には美しく色づいて、撮影 適期になったのだが、ここ 10 年ほどは、11 月中旬で は、ほとんどのイチョウは夏の姿のままだ。一番美し くなるのは、ちょうど今の時期、つまり 12 月中旬か ら下旬なのだ。

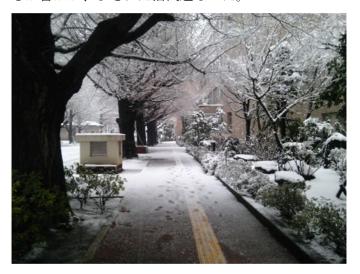


「大学正門のイチョウ並木」 2015, 12, 15 撮影

上の写真は、昨日 (12月 15日) に撮影したものだ。 イチョウの黄葉はまさに見頃で、木によってはまだ緑 色の葉をつけている。門の右側 (守衛所) のそばにあ るのはケヤキの大木だが、これもまだたくさんの葉を 残している。とても 12月中旬の風景には見えない。

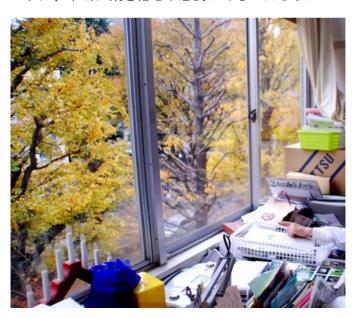
イチョウは言うまでもなく落葉広葉樹である。落葉 樹が秋に葉を落として、裸のまま冬越しをする理由は いくつか考えられる。間違いなく言えることは、「イ チョウは、葉を落としたまま冬を越すほうが有利なよ うに進化した。」ということだ。

落葉樹が秋に葉を落とす理由の一つが、「枝を雪の 重さから守る」ことである。東北のブナの大木は、葉 を落とし終る前に雪が降ってしまうと、葉にも雪が積 もり、枝が折れてしまうことがあるという。太い枝を 落とすと、最悪の場合、その樹は枯死するという。ブ ナにとっては、初雪よりも前に、すべての葉を落とせ るか否かが、まさに死活問題なのだ。



「**雪のイチョウ並木**」 2013 年 1 月撮影 C. Tanaka

東京にも雪は降る。本学のイチョウ並木も、時々美しく雪化粧をする。しかし、それは一年にせいぜい1回か2回で、積もっても5cm程度である。イチョウに葉があっても、たぶん耐えられるだろう。東京のイチョウは、本当に葉を落とす必要があるのだろうか?



「理科準備室から見たイチョウ」まだまだ美しい。